

令和4年度 第2回 高等学校入学者選抜審議会

日時 令和4年11月24日(木) 10時から

場所 行政庁舎9階 第一会議室

次 第

1 開 会

2 審 議

- (1) 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
- (2) 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

3 答 申

4 報 告

- (1) 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜事務日程について
- (2) 専門委員会報告

5 その他

6 閉 会

【 資 料 】

- 資料 審議・報告関係資料
- 別冊 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜要項

高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

第1条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

第2条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第3条 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第4条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第5条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第6条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第7条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

第2回高等学校入学者選抜審議会 名簿

(審議会委員)

No.	氏名	現職	備考
1	田端 健人	宮城教育大学教職大学院 教授	
2	熊谷 龍一	東北大学大学院教育学研究科 准教授	
3	坪田 益美	東北学院大学教養学部 准教授	
4	川嶋 輝彦	仙台経済同友会 常任幹事・事務局長	
5	高橋 真木子	宮城県高等学校PTA連合会 理事	
6	浅野 直美	宮城県PTA連合会 副会長	
7	志小田 美弘	東松島市教育委員会 教育長	
8	高橋 和之	仙台市教育局学校教育課 課長	
9	伊藤 宣子	聖ウルスラ学院英智高等学校 校長	
10	高橋 千春	栗原市立築館中学校 校長	
11	本木 一昭	仙台市立長町中学校 校長	
12	新井 雅行	宮城教育大学附属中学校 校長	
13	佐々木 克敬	宮城県仙台第三高等学校 校長	
14	勅使瓦 理恵	宮城県村田高等学校 校長	
15	徳能 順子	宮城県泉松陵高等学校 校長	
16	菅井 理恵	宮城県総合教育センター 所長	

(教育庁)

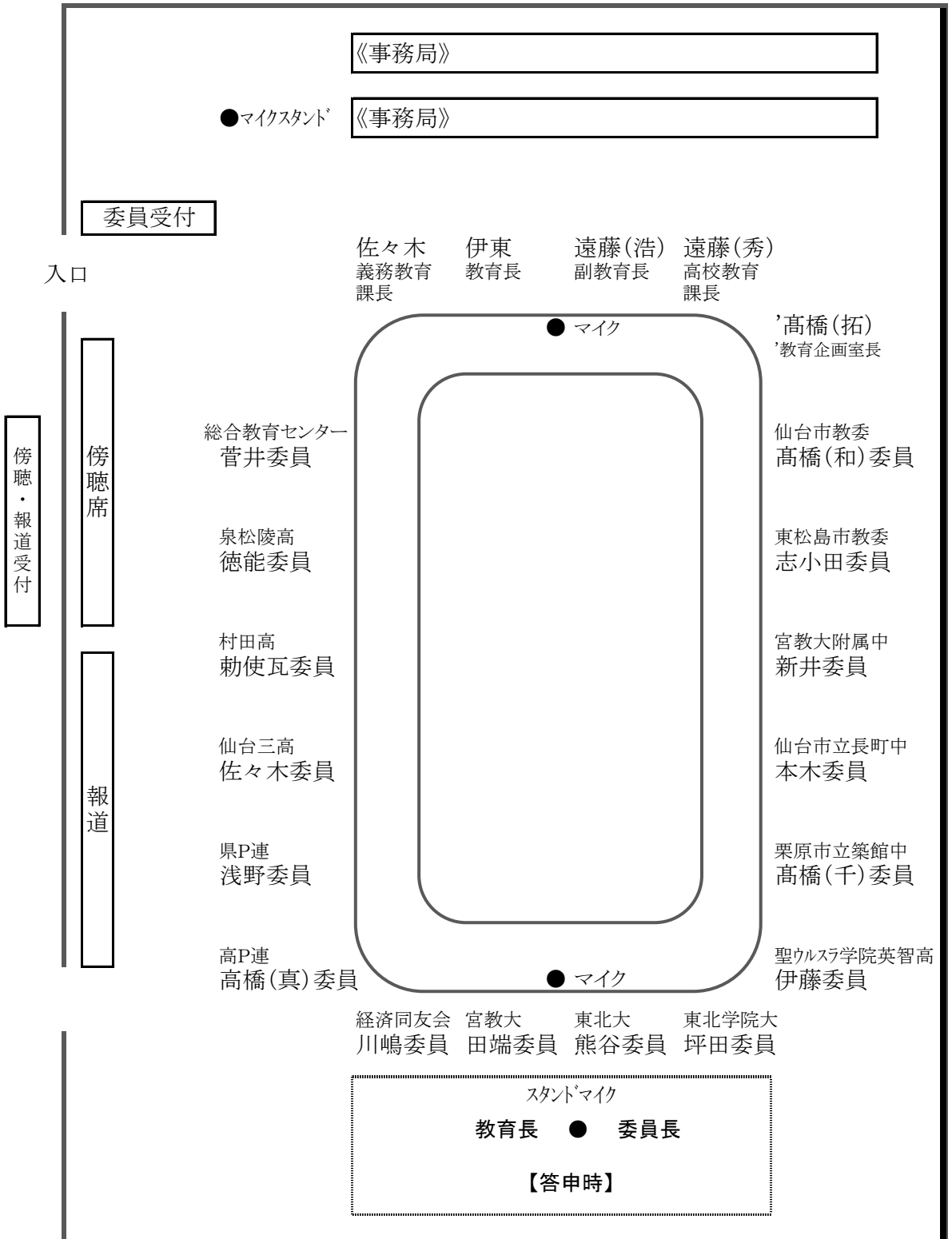
教育委員会	教育長	伊東 昭代
	副教育長	嘉藤 俊雄
	副教育長	遠藤 浩
教育企画室	室長	高橋 拓弥
	教育改革班主幹兼企画員	柴 大輔
教職員課	県立学校人事班課長補佐	佐藤 智子
義務教育課	課長	佐々木利佳子
	指導班副参事	早川 知宏
高校教育課	課長	遠藤 秀樹
	総括課長補佐	後藤 康弘
	副参事兼総括課長補佐	佐藤 和寛
	教育指導第一班課長補佐	櫻井 知大
	〃 主幹	上園 知明
	〃 主幹	菊地 芳浩
	〃 主幹	鎌田 幹子
	〃 主幹	菊地 賢一
	〃 主任主査	岡田 康佑
	教育指導第二班課長補佐	早川 健次
	〃 主幹	赤間 裕樹
	〃 主幹	清原 和
	〃 主査	幸田 雄介

(仙台市教育局)

学校教育課	高校教育課 課長	春日川 孝
	〃 指導主事	末永 光洋

令和4年度 第2回高等学校入学者選抜審議会 座席図

行政庁舎9階 第一会議室



審議関係資料

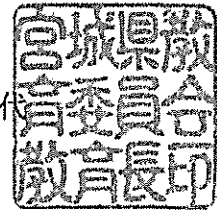
1	諮問文（写し）	1
	（別紙1）令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について	2
	（別紙2）令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について	4
2	第1回審議会における主な意見等	5
3	【審議1】令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について	6
4	【審議2】令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について	
	（1）平成25年から令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜日程の推移	6
	（2）令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程のシミュレーション（修正案）	7
	（3）令和7年度以降の宮城県立高等学校入学者選抜日程のシミュレーション	8



高 第 3 7 6 号
令和 4 年 7 月 2 7 日

高等学校入学者選抜審議会委員長 殿

宮城県教育委員会
教育長 伊 東 昭 代



宮城県立高等学校入学者選抜について（諮問）

このことについて、高等学校入学者選抜審議会条例第 1 条の規定により、
下記事項について諮問します。

記

- 1 令和 6 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙 1）
- 2 令和 6 年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙 2）

令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針(案)

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各宮城県立高等学校長(以下「高等学校長」という。)は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、宮城県立高等学校(以下「高等学校」という。)にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 第一次募集

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、第一次募集を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、学力検査の結果及び必要に応じて実施する面接、実技(体育及び美術に関する学科の場合)、作文の検査結果に基づいて共通選抜と特色選抜の2通りの方法により選抜するものとする。
- (2) 学力検査
 - イ 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。
 - ロ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 追試験

すべての高等学校は、第一次募集検査日当日に、やむを得ない事由により受験できなかった者を対象に、追試験を実施する。

この場合、学力検査、面接、実技(体育及び美術に関する学科の場合)及び作文並びに選抜方法等については、第一次募集に準ずる。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技(体育及び美術に関する学科の場合)及び作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則とし

て、調査書、その他必要な書類、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科を有する高等学校においては、第一次募集において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

8 全国募集選抜

全国募集を行うモデル校として指定された高等学校は、該当する市町村と生徒受け入れに関して連携して、全国募集選抜への出願者を対象とした選抜を実施する。

この場合、募集人数は、募集定員の外数とし、選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程(案)

第一次募集

実施日 令和6年 3月 5日(火)

追試験日 令和6年 3月12日(火)

合格発表日 令和6年 3月15日(金)

2 第1回審議会における主な意見等

(1) 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

イ 事務局案

- 令和5年度の選抜方針の内容及び文言の変更なし。後ろに、令和5年度入学者選抜から導入された「全国募集選抜」についての記述を加える。

ロ 委員からの意見

- 特になし

(2) 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

イ 事務局案

- 第一次募集の学力検査日について、従来の3月4日とした場合、卒業式後平日をはさまずに実施となるため、会場準備等ができないため、一日後ろに下げて3月5日（火）とする。
- 第一次募集の学力検査から追試験までの日数について、従来通りインフルエンザ罹患を想定し5日以上を確保する。令和6年度は、曜日の関係から3月11日（月）になるが、鎮魂の日であることから、さらに一日後ろに下げて3月12日（火）とする。
- 学力検査日から合格発表までの日数について、採点や追試験、入試事務等の日程を考慮し、平日8日間、休日を含めて10日間以上を確保することから、3月15日（金）とする。
- 第一次募集で不合格となった受験生の心のケア等のため、第二次募集出願期間は、第一次募集合格発表日から平日3日間を確保する。

ロ 委員からの意見

- 第一次募集の合格発表日は中学校の卒業式も考慮する必要がある。
- コロナ禍での高校入試であることから、罹患した受験生が増え、第二次募集もこれまで以上にじっくりと考える必要があることから、第一次募集の合格発表日については、金曜日実施を避けて受験する中学生が立ち直りまでの時間をとってあげるべきではないか。

ハ その他

- 令和4年8月10日付け宮私中高連発第53号で宮城県私立中学高等学校連合会会長より、「令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」の要望書が教育長宛て提出された。
(内容) 第一次募集の合格発表を令和6年3月14日（木）にすること

審 議

1 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）（2ページ（別紙1）参照）

2 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

（1）平成25年度～令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜日程の推移

入試年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入試制度	前期選抜・後期選抜・第二次募集							第一次募集・第二次募集				
推薦入学・前期選抜出願者受付	1.11～16	1.14～17	1.13～16	1.12～15	1.10～13	1.9～12	1.8～11	/				
推薦入学出願者の面接等												
（私立高入試A日程）	1.28(月)	1.29(水)	1.28(水)	1.27(水)	1.25(水)	1.24(水)	2.4(月)	2.4(火)	2.2(火)	2.1(火)	1.31(火)	
（私立高入試B日程）	1.30(水)	1.31(金)	1.30(金)	1.29(金)	1.27(金)	1.26(金)	2.6(水)	2.6(木)	2.4(木)	2.3(木)	2.2(木)	
前期選抜実施日	2.1(金)	2.4(火)	2.3(火)	2.3(水)	2.1(水)	1.31(水)	1.31(木)	/				
推薦入学結果通知 前期合格発表	2.12(火)	2.12(水)	2.10(火)	2.12(金)	2.9(木)	2.8(木)	2.8(金)					
第一次募集（後期選抜） 出願受付	2.20～25	2.20～25	2.19～24	2.23～26	2.21～24	2.19～22	2.18～21	2.17～20	2.15～18	2.15～18	2.14～17	
第一次募集（後期選抜） 学力検査	3.7(木)	3.6(木)	3.5(木)	3.9(水)	3.8(水)	3.6(火)	3.6(水)	3.4(水)	3.4(木)	3.4(金)	3.6(月)	
第一次募集（後期選抜） 追試験								3.10(火)	3.10(水)	3.10(木)	3.13(月)	
第一次募集（後期選抜） 合格者の発表	3.13(水)	3.12(水)	3.12(木)	3.16(水)	3.16(木)	3.14(水)	3.14(木)	3.16(月)	3.16(火)	3.16(水)	3.16(木)	
第二次募集出願受付	3.14～18	3.13～17	3.13～17	3.17～18	3.17～21	3.15～19	3.15～18	3.17～19	3.17～19	3.17～22	3.17～22	
第二次募集実施日 ・合格発表	3.21～22	3.19～20	3.19～20	3.23～24	3.22～23	3.20 又は22	3.19 又は20	3.23 又は24	3.22 又は23	3.23 又は24	3.23 又は24	

※ 令和6年カレンダー

1 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

【参考】令和7年度以降の宮城県立高等学校入学者選抜日程のシミュレーション

	令和6年度入試 (2024年)		令和7年度入試 (2025年)		令和8年度入試 (2026年)		令和9年度入試 (2027年)
火	27	木	27	金	27	土	27
水	28	金	28	土	28	日	28
木	29						
金	3月1 卒業式	土	3月1 卒業式	日	3月1 卒業式	月	3月1 卒業式
土	2	日	2	月	2	火	2
日	3	月	3	火	3	水	3
月	4	火	4	水	4 一次学力検査日	木	4 一次学力検査日
火	5 一次学力検査日	水	5 一次学力検査日	木	5	金	5
水	6	木	6	金	6	土	6
木	7	金	7	土	7	日	7
金	8 追試験	土	8	日	8	月	8
土	9	日	9	月	9	火	9
日	10	月	10	火	10 追試験	水	10 追試験
月	11 鎮魂の日	火	11 鎮魂の日	水	11 鎮魂の日	木	11 鎮魂の日
火	12	水	12 追試験	木	12	金	12
水	13	木	13	金	13	土	13
木	14 一次合格発表	金	14	土	14	日	14
金	15 二次出願	土	15	日	15	月	15
土	16	日	16	月	16 一次合格発表	火	16 一次合格発表
日	17	月	17 一次合格発表	火	17 二次出願	水	17 二次出願
月	18 二次出願	火	18 二次出願	水	18 二次出願	木	18 二次出願
火	19 二次出願	水	19 二次出願	木	19 二次出願	金	19 二次出願
水	20 春分の日	木	20 春分の日	金	20 春分の日	土	20
木	21 二次実施合格発表	金	21 二次出願	土	21	日	21 春分の日
金	22 二次合格発表	土	22	日	22	月	22 振替休日
土	23	日	23	月	23 二次実施合格発表	火	23 二次実施合格発表
日	24	月	24 二次実施合格発表	火	24 二次合格発表	水	24 二次合格発表
月	25	火	25 二次合格発表	水	25	木	25
火	26	水	26	木	26	金	26
水	27	木	27	金	27	土	27

一次検査から発表まで
平日 7
休日 2
合計 9

二次合格終了日 3月22日
休日出勤最大 0日

一次検査から発表まで
平日 7
休日 4
合計 11

二次合格終了日 3月25日
休日出勤最大 0日

一次検査から発表まで
平日 8
休日 4
合計 12

二次合格終了日 3月24日
休日出勤最大 0日
※令和2年度と同じパターン

一次検査から発表まで
平日 8
休日 4
合計 12

二次合格終了日 3月24日
休日出勤最大 0日
※令和3年度と同じパターン

報告関係資料

I 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜事務日程等について

- 事務日程 1
- 全国募集選抜 1

II 専門委員会からの調査研究中間報告

(調査研究) 「新入試制度の実施状況の評価及び今後の定着に向けての改善の方向性」

- 概要 2
 - 1 調査研究の目的
 - 2 専門委員
 - 3 審議の経過
 - 4 今後の予定
- 概要 3
 - 5 検証の観点及び検証事項
- 補助資料 6
 - ・各カテゴリーの質問項目の状況分析 6
 - ・課題の焦点化に向けた質問項目の詳細分析 8
 - ・前回実施した質問紙調査との比較分析 13
 - ・入試全般に関する各カテゴリーの自由記述 18

I 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜事務日程等について

【事務日程】

事 項		期 日	
募集定員公表		令和4年5月20日(金)	
求める生徒像・選抜方法一覧公表		令和4年5月20日(金)	
出 願 希 望 調 査		令和5年1月11日(水)から1月13日(金)午後3時まで	
第 一 次 募 集 (連携型選抜) (全国募集選抜)	出 願 受 付	令和5年2月14日(火)から2月17日(金)午前11時まで	
	学 力 検 査 等 実 施 日	令和5年3月6日(月)	
	追 試 験 実 施 日	令和5年3月13日(月)	
	合 格 者 の 発 表	令和5年3月16日(木)午後3時	
第 二 次 募 集	出 願 受 付	令和5年3月17日(金)から3月22日(水)まで	
	学 力 検 査 等	令和5年3月23日(木)	
	合 格 者 の 発 表	令和5年3月23日(木)又は3月24日(金)	
通 信 制 課 程	一 期 入 学 者 選 抜	出 願 受 付	令和5年3月13日(月)から3月20日(月)まで
		面 接 検 査	令和5年3月22日(水)から3月24日(金)の指定された日
		合 格 通 知	令和5年3月27日(月)に郵便で発送
	二 期 入 学 者 選 抜	出 願 受 付	令和5年9月4日(月)から9月8日(金)
合 格 通 知		令和5年9月15日(金)に郵便で発送	

【全国募集選抜】

実施校名	募集人数
南三陸高校	普通科8人程度, 情報ビジネス科4人程度
中新田高校	普通科5人程度

- ・ 学校説明会, オープンキャンパス等
令和4年7月～10月 (以降は随時)
- ・ 町との事前面談等
令和4年12月
- ・ 出願承認申請
令和4年12月13日(火)から令和5年2月16日(木)

II 調査研究中間報告

専門委員会

(調査研究)「新入試制度の実施状況の評価及び今後の定着に向けての改善の方向性」

1 調査研究の目的

令和2年度からスタートした新入試制度について、これまで3カ年の実施状況を踏まえ、主に旧制度からの変更点についてその効果を評価するとともに、併せて、新制度の今後一層の定着に向けての改善の方向性についての検討を行い、入学者選抜制度の改善に資する。

2 専門委員 8名(入選審から4名兼務 熊谷委員が委員長に選出)

所属	職名	氏名	備考
東北大学大学院教育学研究科	准教授	熊谷 龍一	委員長 入選審委員
宮城県PTA連合会	副会長	浅野 直美	入選審委員
栗原市立築館中学校	校長	高橋 千春	入選審委員
蔵王町立遠刈田中学校	教頭	佐藤 和夫	
東北学院榴ヶ岡高等学校	校長	河本 和文	
宮城県名取高等学校	校長	茂木 悟	
宮城県宮城広瀬高等学校	教頭	佐々木久晴	
宮城県総合教育センター	所長	菅井 理恵	入選審委員

3 審議の経過

(1) 第1回専門委員会(令和4年9月27日 県庁)

○(調査研究)「新入試制度の実施状況の評価」

- ・3カ年の宮城県公立高等学校入学者選抜結果の検討
- ・宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果分析

(2) 第2回専門委員会(令和4年10月20日 県庁)

○(調査研究)「新入試制度の実施状況の評価」

- ・宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果詳細分析

○(調査研究)「今後の定着に向けての改善の方向性」

- ・今後一層の定着に向けての課題の焦点化

4 今後の予定

第3回専門委員会(令和5年6月頃 県庁)

- (調査研究)「今後の定着に向けての改善の方向性」
- (検討)「高等学校入学者選抜審議会報告」

令和5年度第1回高等学校入学者選抜審議会(令和5年7月頃 県庁)

- (報告)「新入試制度の実施状況の評価及び今後の定着に向けての改善の方向性」

5 検証の観点及び検証事項

●検証の観点

- ・旧制度からの変更点の効果
- ・制度の今後一層の定着に向けた改善の方向性

●旧入試制度の課題

- ・複数の受験機会の確保に伴う入試期間の長期化
- ・特色ある選抜の在り方について
- ・入試事務の在り方について

●検証事項

- 検証 1 前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化し、入試期間の長期化を解消
- 検証 2 各高等学校の特色をより明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価
- 検証 3 各高等学校が求める生徒像を提示することで、中学生の目的意識の明確化及び主体的な進路選択を促進
- 検証 4 入試期間における入試事務及び入試以外の業務の負担軽減

○検証 1 前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化し、入試期間の長期化を解消

(1) 旧制度の課題

- ・前期選抜不合格による挫折体験からの精神的回復期間の確保が必要である。
- ・出願条件のため、「入りたい高校」ではなく「受験できる高校」を受験生が選択する傾向が強くなった。
- ・前期選抜合格者の授業に対する意欲の低下及び後期選抜受験者との間に温度差が生じた。

(2) 検証の視点

新制度では、前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化することとした。前期選抜に関する課題の改善及び長期化により生じた負担等の改善は図られたか。

(3) 検証のまとめ

- ア 前期選抜の課題であった多くの受験生の不合格体験（挫折体験）を生じることがなくなった。
- イ 出願条件を撤廃したことにより、すべての受験生が入りたい高校を選択することが可能となった。
- ウ 前期選抜合格者の学力と授業へのモチベーションを3月まで保たせることや、合格した生徒とこれから受験する生徒が混在したクラス運営の課題で改善が見られたが、国立や私立の受験や地域差もあり、引き続き検討が必要である。

○検証2 各高等学校の特色をより明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価

(1) 旧制度の課題

- ・募集定員の少ない前期選抜は出願倍率が高くなり、不合格者数が増加した。
- ・前期受験者は、国語、数学、英語の3教科に力をいれ、社会及び理科を軽視する傾向が見られるようになった。

(2) 検証の視点

新制度では、入試日程を一本化して1回の学力検査の受験により、学力に基づく共通選抜と特色に基づく特色選抜の2つの方法で選抜することとした。その効果はどうであったか。

(3) 検証のまとめ

- ア 前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化したことにより不合格者数が減少した。
- イ 第一次募集に共通選抜と特色選抜を設定したことにより、受験生の多様な能力・適正等を多面的に評価することを可能としたが、特色選抜の不明瞭さや共通選抜と特色選抜の割合など引き続き検討が必要である。

○検証3 各高等学校が求める生徒像を提示することで、中学生の目的意識の明確化及び主体的な進路選択を促進

(1) 旧制度の課題

- ・前期選抜の出願条件は、具体的な指標が示され明確であったが、平等な受験機会の確保に支障があった。
- ・前期選抜に出願する生徒と出願しない生徒で目的意識や進路選択への意欲に大きな格差が生じた。

(2) 検証の視点

新制度では、各高等学校の特色を「求める生徒像」として明確に示し、目的意識や学習習慣の向上等、中学校と高校の接続としての高校入試の位置づけを明確にした。その効果はどうであったか。

(3) 検証のまとめ

- ア 「求める生徒像」を明確に示したことにより、受験生の目的意識が向上し、主体的な進路選択をする傾向が向上した。
- イ 「求める生徒像」を明確に示したことにより、将来を意識するとともに、求める生徒像が示す内容を意識して中学校生活を過ごす生徒が増加した。
- ウ 「求める生徒像」の記載内容や表現については、生徒や保護者の意見も踏まえて引き続き検討が必要である。

○検証4 入試期間における入試事務及び入試以外の業務の負担軽減

(1) 旧制度の課題

- ・前期選抜志願者の増加により、学校独自検査に係る指導や入試事務作業量の増加及び教員の多忙化が課題となった。
- ・入試事務と定期考査、学年末の事務整理等の期間重複による事務作業が煩雑化した。
- ・入試期間の長期化により、教育活動及び在校生への学習指導に支障が生じた。

(2) 検証の視点

新制度では、入試日程を一本化することにより、入試期間を短縮することができた。その効果はどうであったか。

(3) 検証のまとめ

- ア 前期選抜と後期選抜を一本化することにより、入試事務の回数が減少した。
- イ 入試期間が短縮され、教育活動や在校生への指導に時間を割けるようになった。
- ウ 受験機会の確保の措置として導入した追試験は受験生に安心感を与えたが、3月に第一次募集及び追試験、第二次募集と追試験を実施する高校や第二次募集を実施する高校は日程が非常に窮屈である。日程については引き続き検討が必要である。

各カテゴリーの質問項目の状況分析

※表示している比は、（1または2を選択した割合）：（3または4を選択した割合）

項目	中学校 (回答数215)	高等学校 (回答数82)	生徒 (回答数3,311)	保護者 (回答数2,095)	
Ⅰ 高校入試（学力検査）について					
1	自分の将来を考える機会となった		生 (1) ①【Q1】 73 : 27	保 (1) ①【Q1】 74 : 26	
2	日頃の学習意欲を高めることに役立った	中 (1) 【Q1】 95 : 5	生 (1) ②【Q2】 71 : 29	保 (1) ②【Q2】 71 : 29	
3	学習習慣を身に付けることに役立った		生 (1) ③【Q3】 68 : 32	保 (1) ③【Q3】 67 : 33	
Ⅱ 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について					
1	志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されている	中 (2) ①【Q2】 93 : 7	高 (1) ①【Q1】 98 : 2	生 (2) ①【Q4】 82 : 18	保 (2) ①【Q4】 78 : 22
2	受験生にとって、わかりやすく記載されている		生 (2) ②【Q5】 76 : 24	保 (2) ②【Q5】 67 : 33	
3	受験生の進路に対する意識を高めることにつながっている	中 (2) ②【Q3】 89 : 11	高 (1) ②【Q2】 90 : 10	生 (2) ④【Q7】 79 : 21	保 (2) ④【Q7】 72 : 28
4	受験生の医師や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている	中 (2) ③【Q4】 83 : 17	高 (1) ③【Q3】 90 : 10	生 (2) ⑤【Q8】 78 : 22	保 (2) ⑤【Q8】 70 : 30
5	日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている	中 (2) ④【Q5】 65 : 35			
6	教員が各高校の特色を理解することに役立っている	中 (2) ⑤【Q6】 93 : 7			
7	教員が受験生に対して進路指導を行うことに役立っている	中 (2) ⑥【Q7】 94 : 6			
8	各高校が進める特色ある学校づくりに役立っている		高 (1) ④【Q4】 91 : 9		
9	中学校の教員が、各高校の特色を理解することに役立っている		高 (1) ⑤【Q5】 88 : 12		
10	受験生が各高校の特色を理解することに役立っている	中 (2) ⑦【Q8】 87 : 13	高 (1) ⑥【Q6】 85 : 15	生 (2) ③【Q6】 76 : 24	保 (2) ③【Q6】 72 : 28
11	生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている	中 (2) ⑧【Q9】 66 : 34			

※表示している比は、（1または2を選択した割合）：（3または4を選択した割合）

項目	中学校 (回答数215)	高等学校 (回答数82)	生徒 (回答数3,311)	保護者 (回答数2,095)
Ⅲ 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて				
1	在校生生徒に対応する時間の確保につながっている 中 (3) ④ 【Q13】 76 : 24	高 (2) ① 【Q7】 85 : 15		
2	入試期間が短くなり、高校の教育活動を充実させることに役立っている	高 (2) ② 【Q8】 82 : 18		
3	入試期間が短くなり、受験生として緊張が継続する負担が軽減している 中 (3) ① 【Q10】 72 : 28			
4	第一次募集に追試験が導入され、受験に臨む上で、受験生や保護者の安心感につながっている 中 (3) ② 【Q11】 93 : 7		生 (3) 【Q9】 75 : 25	保 (3) 【Q9】 84 : 16
5	合格した生徒と受験を控えた生徒が混在することによるクラス運営上の負担が軽減している 中 (3) ③ 【Q12】 69 : 31			
6	入試業務の負担軽減につながっている 中 (3) ⑤ 【Q14】 87 : 13	高 (2) ③ 【Q9】 67 : 33		
7	入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている 中 (3) ⑥ 【Q15】 68 : 32			
8	進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分に考慮して進路選択している 中 (3) ⑦ 【Q16】 63 : 37		生 (6) 【Q12】 62 : 38	保 (6) 【Q12】 50 : 50
9	入試日程を一本化しても、複数の選抜機会が維持されている	高 (2) ④ 【Q10】 71 : 29		
10	学校の特色に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている	高 (2) ⑤ 【Q11】 72 : 28		
11	求める生徒像に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている	高 (2) ⑥ 【Q12】 72 : 28		
Ⅳ 1月中旬に公表している出願希望調査について				
1	受験生の進路選択に役立っている 中 (4) 【Q17】 94 : 6	高 (3) 【Q13】 96 : 4	生 (4) 【Q10】 81 : 19	保 (4) 【Q10】 85 : 15
Ⅴ 現行の入試制度の日程について				
1	第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は適切である 中 (5) ① 【Q18】 88 : 12	高 (4) ① 【Q14】 88 : 12	生 (5) 【Q11】 77 : 23	保 (5) 【Q11】 65 : 35
2	第一次募集の本試験から追試験までの日数は適切な期間を保証している 中 (5) ② 【Q19】 92 : 8	高 (4) ② 【Q15】 91 : 9		
3	第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は適切な期間を保証している 中 (5) ③ 【Q20】 82 : 18	高 (4) ③ 【Q16】 83 : 17		

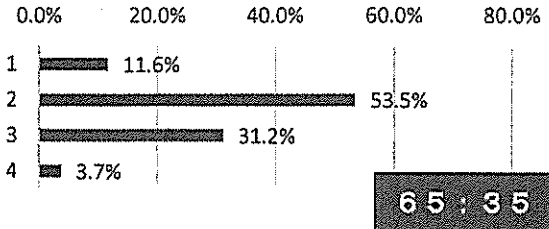
課題の焦点化に向けた質問項目の詳細分析

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：中学校】

(2) 中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑧の質問にお答えください。

④【Q5】日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている。

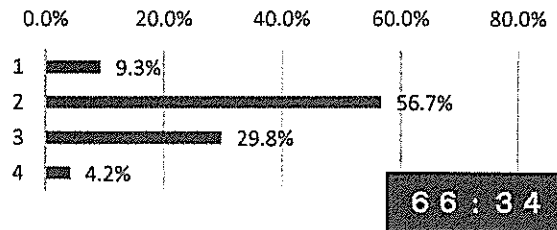
1：そう思う	25	11.6%
2：どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	8	3.7%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数30 (14.0%) 1or2の記述12, 3or4の記述18】
評価事項	・日々の勉強の取組や心掛けにつながっているなどの記載 (12件)
課題事項	・求める生徒像が学習習慣を身に付けることに関連していないなどの記載 (11件) ・定員割れの学校が増えて日々の学習習慣への影響が薄れているなどの記載 (2件)

⑧【Q9】生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている。

1：そう思う	20	9.3%
2：どちらかといえばそう思う	122	56.7%
3：どちらかといえばそう思わない	64	29.8%
4：そう思わない	9	4.2%
回答数合計	215	

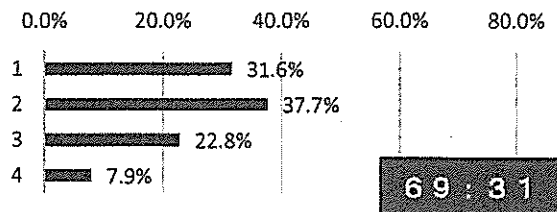


区分	主な自由記述内容【記述数25 (11.6%) 1or2の記述14, 3or4の記述11】
評価事項	・具体的な目標を持って日々を過ごしているなどの記載 (7件) ・生徒自身がすり替える視点として捉えられるなどの記載 (2件)
課題事項	・直接関連しているとは思えないなどの記載 (8件) ・中学校生活の充実にはもう少し早く複数の資料を提示する必要があるなどの記載 (2件)

(3) 中 (3) 新しい入試制度（現行入試制度）において、入試日程を一本化したことについて、次の①～⑦の質問にお答えください。

③【Q12】合格した生徒と受験を控えた生徒が混在することによるクラス運営上の負担が軽減している。

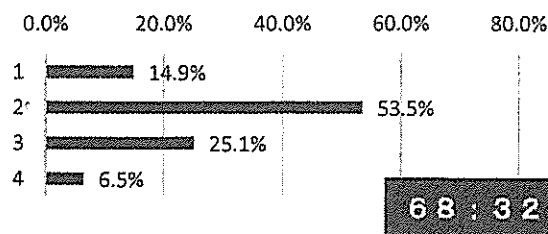
1：そう思う	68	31.6%
2：どちらかといえばそう思う	81	37.7%
3：どちらかといえばそう思わない	49	22.8%
4：そう思わない	17	7.9%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数41 (19.1%) 1or2の記述17, 3or4の記述24】
評価事項	・旧入試制度のときには前期選抜不合格者への対応も含め負担が大きかったなどの記載 (8件) ・生徒との相談時間が多く確保できるようになったなどの記載 (2件)
課題事項	・私立高校入試があるのであまり変化はないなどの記載 (25件)

⑥【Q15】入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている。

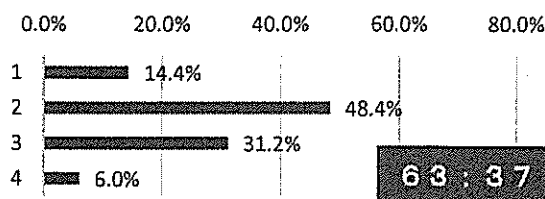
1：そう思う	32	14.9%
2：どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3：どちらかといえばそう思わない	54	25.1%
4：そう思わない	14	6.5%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数21 (9.8%) 1or2の記述8, 3or4の記述13】
評価事項	・授業実施時数を確保することができたなどの記載 (4件) ・本来の教育活動に費やせる時間が増えたなどの記載 (3件)
課題事項	・私立高校入試等があるので入試期間が短くなったとは感じられないなどの記載 (11件) ・教育活動が充実したとは感じていないなどの記載 (2件)

⑦【Q16】生徒が進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行っている。

1：そう思う	31	14.4%
2：どちらかといえばそう思う	104	48.4%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	13	6.0%
回答数合計	215	



【比較】生徒Q12, 保護者Q12

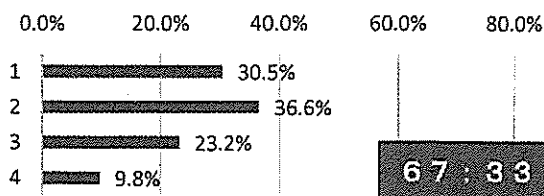
区分	主な自由記述内容【記述数50 (23.3%) 1or2の記述17, 3or4の記述33】
評価事項	・自分の特性を十分に考えて進路選択することができたなどの記載 (10件)
課題事項	・共通選抜の割合が高い高校が多いためにあまり考慮していないなどの記載 (16件) ・どちらの選抜で合格したかわからないので進路指導が難しいなどの記載 (16件) ・選抜方法ではなく学校自体で進路選択しているなどの記載 (2件)

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：高等学校】

(2) 高 (2) 新しい入試制度 (現行入試制度) において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定したことについて、次の①～⑥の質問にお答えください。

③【Q9】高校における入試業務の負担が軽減している。

1：そう思う	25	30.5%
2：どちらかといえばそう思う	30	36.6%
3：どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4：そう思わない	8	9.8%
回答数合計	82	



【比較】中学校Q14

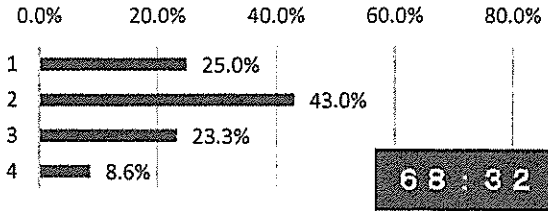
区分	主な自由記述内容【記述数36 (43.9%) 1or2の記述15, 3or4の記述21】
評価事項	・(受験実施数の減少や学校独自問題廃止等) 入試に係る業務は減ったなどの記載 (6件)
課題事項	・入試回数は減少したが、業務量としては増加したところも感じられるなどの記載 (13件) ・負担軽減していると思うが実感を伴うほどではないなどの記載 (5件) ・この2年間は新型コロナ対応で負担感が増しているなどの記載 (6件) ・採点業務や追試験など3月に業務が集中していて負担感を感じるなどの記載 (2件)

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：生徒】

(1) 生 (1) 高校入試（学力検査）について、次の①～③の質問にお答えください。

③【Q3】中学校生活において、学習習慣を身に付けることに役立った。

1：そう思う	752	25.0%
2：どちらかといえばそう思う	1296	43.0%
3：どちらかといえばそう思わない	703	23.3%
4：そう思わない	260	8.6%
回答数合計	3011	

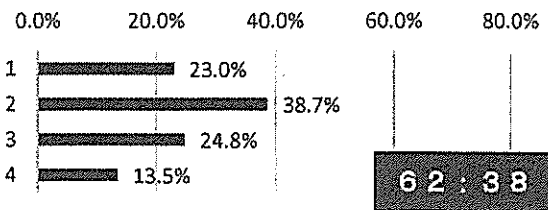


【比較】保護者Q3

区分	主な自由記述内容【記述数328（10.8%） 1or2の記述200, 3or4の記述128】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰ってから勉強する習慣がついた（多数） ・計画的に勉強するようになった（多数） ・自分の苦手なところを理解することができた（多数） ・勉強する時間が増加した（多数）
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> ・塾に通い始めたことで学習習慣が身についた（多数） ・焦りや危機感から勉強するようになった（多数） → しかし、高校に入ったらやらなくなった ・勉強しなかった（多数） ・やる気力がなかった（多数） ・学習習慣と入試制度は関係ない

(6) 生 (6) 【Q12】進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。

1：そう思う	692	23.0%
2：どちらかといえばそう思う	1165	38.7%
3：どちらかといえばそう思わない	747	24.8%
4：そう思わない	407	13.5%
回答数合計	3011	



【比較】中学校Q16, 保護者Q12

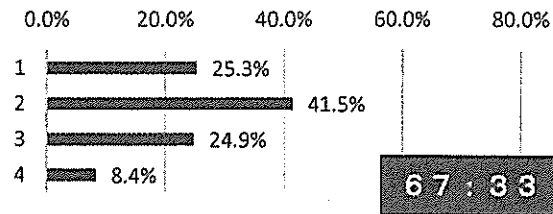
区分	主な自由記述内容【記述数125（4.2%） 1or2の記述47, 3or4の記述78】
評価事項	・両方の選抜を意識しながら受験することができた
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり気にしていなかった（多数） ・どのように選抜しているかわからない ・点数を取るだけ考えていた ・選抜人数の多い共通選抜のみで考えていた

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：保護者】

(1) 保 (1) 高校入試 (学力検査) について、次の①～③の質問にお答えください。

③ 【Q3】 中学校生活において、受験生が学習習慣を身に付けることに役立った。

1 : そう思う	530	25.3%
2 : どちらかといえばそう思う	869	41.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	521	24.9%
4 : そう思わない	175	8.4%
回答数合計		2095



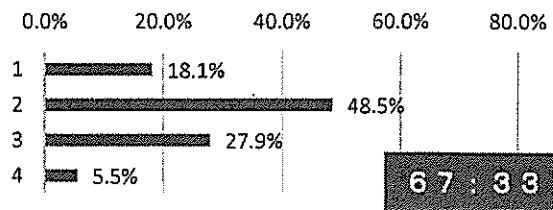
【比較】生徒Q3

区分	主な自由記述内容【記述数314 (15.0%) 1or2の記述156, 3or4の記述158】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学習が習慣化した (多数) ・計画的に学習するようになった (多数) ・目標が定まり、努力するようになった
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> ・塾に通い頑張っていた (多数) ・よくわからない (多数) ・変化がなかった (多数) ・学習習慣が身に付かなかった (多数) ・学習習慣と入試制度の変更に関係はない

(2) 保 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑤の質問にお答えください。

② 【Q5】 受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

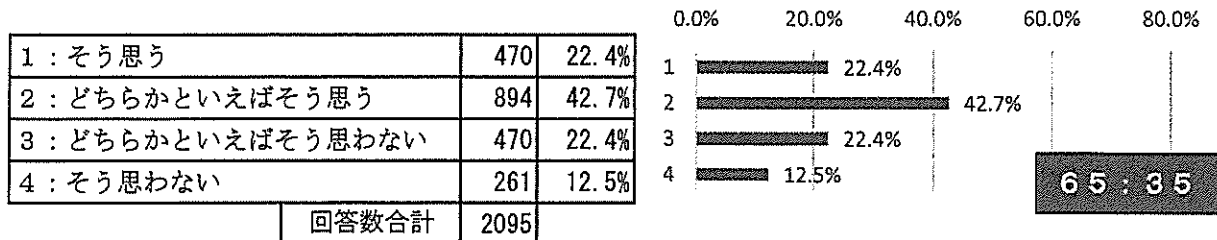
1 : そう思う	380	18.1%
2 : どちらかといえばそう思う	1016	48.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	584	27.9%
4 : そう思わない	115	5.5%
回答数合計		2095



【比較】生徒Q5

区分	主な自由記述内容【記述数183 (8.7%) 1or2の記述67, 3or4の記述116】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすかった (多数) ・目標が設定しやすい
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し噛み砕いた内容にして欲しいと感じた (多数) ・普通科は各学校で違いがあまりないように思う (多数) ・あまり見ていない ・求める生徒像をあまり気にしていない ・説明されないと理解できていないところがあった

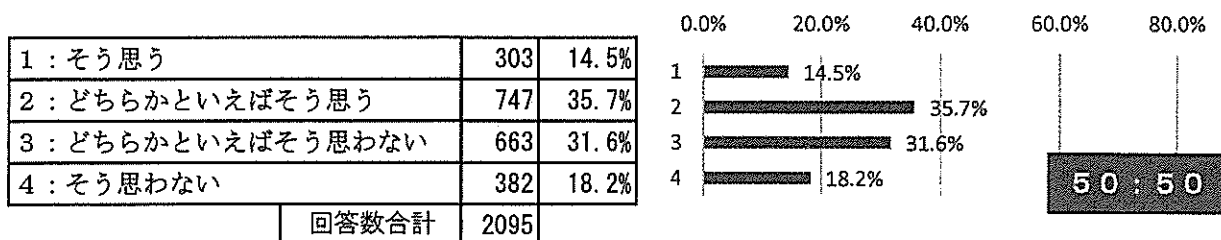
(5) 保 (5) 【Q11】 第一次募集の出願から本試験を経て合格発表までの入試に係る日数は、受験生にとって適切であった。



【比較】 中学校Q18, 高等学校Q14, 生徒Q11

区分	主な自由記述内容【記述数354 (16.7%) 1or2の記述81, 3or4の記述273】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題ない又は妥当な期間である (多数) ・本試験と合格発表の間に余裕がありその間に卒業式ができるのは精神的にありがたい ・同じ条件であれば期間の長い短いはそれほど関係ない
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> ・試験日から合格発表までの期間が少し長いと感じた (多数) ・卒業式までに進路が決まっているべきだと思う ・第二次募集までの期間に余裕が欲しい

(6) 保 (6) 【Q12】 受験生が進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。



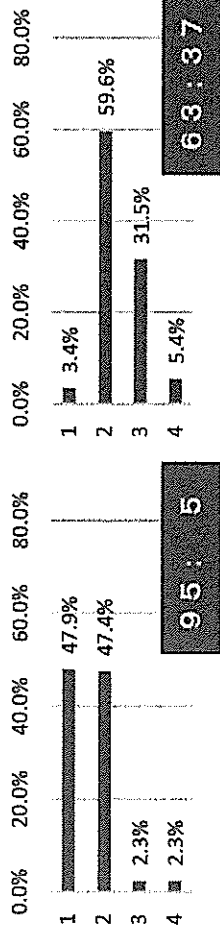
【比較】 中学校Q16, 生徒Q12

区分	主な自由記述内容【記述数223 (10.6%) 1or2の記述57, 3or4の記述166】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の尺度で評価してもらえることはよい ・特色選抜でこれまで頑張ってきたことを認めってもらえることはよい ・勉強が苦手な受験生にはチャンスが与えられている ・何か特色を持っていれば可能性が広がる
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特色選抜についてはよくわからなかった (多数) ・特色選抜をあまり考慮しなかった ・特色選抜に関わる事柄が特になかった ・特色選抜での選抜人数が少ないので共通選抜で考えていた ・共通選抜と特色選抜があることを理解していなかった

前回（平成28年度）実施の質問紙調査との比較分析

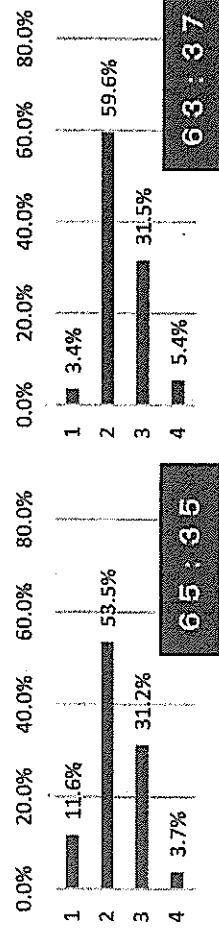
【比較1】入試制度による学習意欲への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中 (1) 【Q1】 高校入試という目標が、生徒が日頃の学習意欲を高めることに役立っている。	中【Q3】 新しい入試制度は、「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている。		



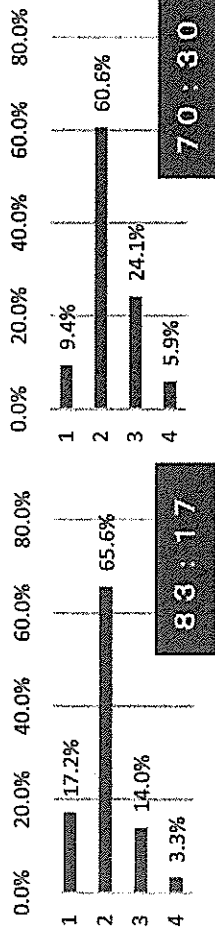
【比較2】入試制度による学習習慣の形成への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、	中【Q3】 新しい入試制度は、「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている。		
④【Q5】 日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている。			



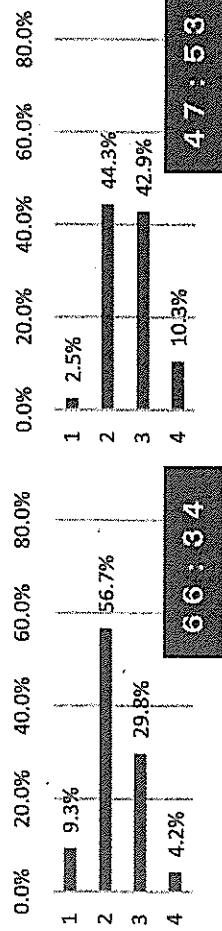
【比較3】入試制度による主体的な進路選択への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
<p>中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、</p> <p>③【Q4】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。</p>	<p>中【Q2】新しい入試制度は、「目的意識の明確化・主体的な進路選択」に役立っている。</p>		



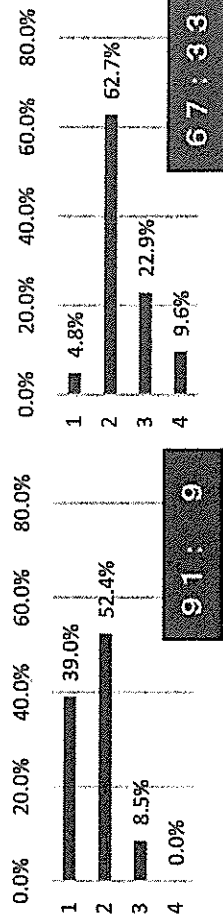
【比較4】入試制度による学校生活の充実への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
<p>中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、</p> <p>③【Q9】生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている。</p>	<p>共【Q7】新しい入試制度は、「生徒にとって、学校生活の充実」に役立っている。</p>		



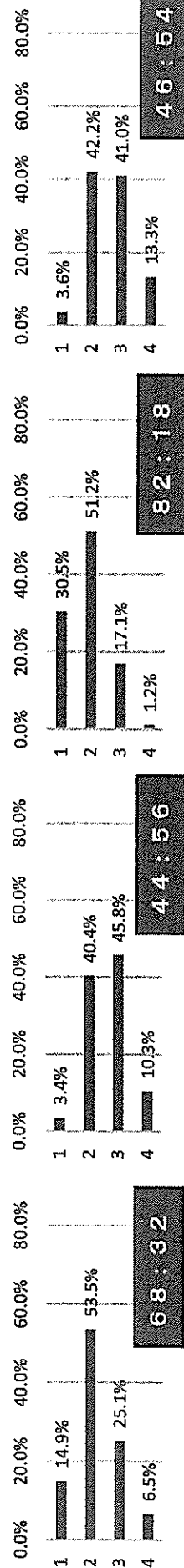
【比較5】入試制度による特色ある学校づくりへの影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
		高(1) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ④【Q4】各高校が進める特色ある学校づくりに役立っている。	高【Q4】新しい入試制度は、各高校が進める「特色ある学校づくり」に役立っている。

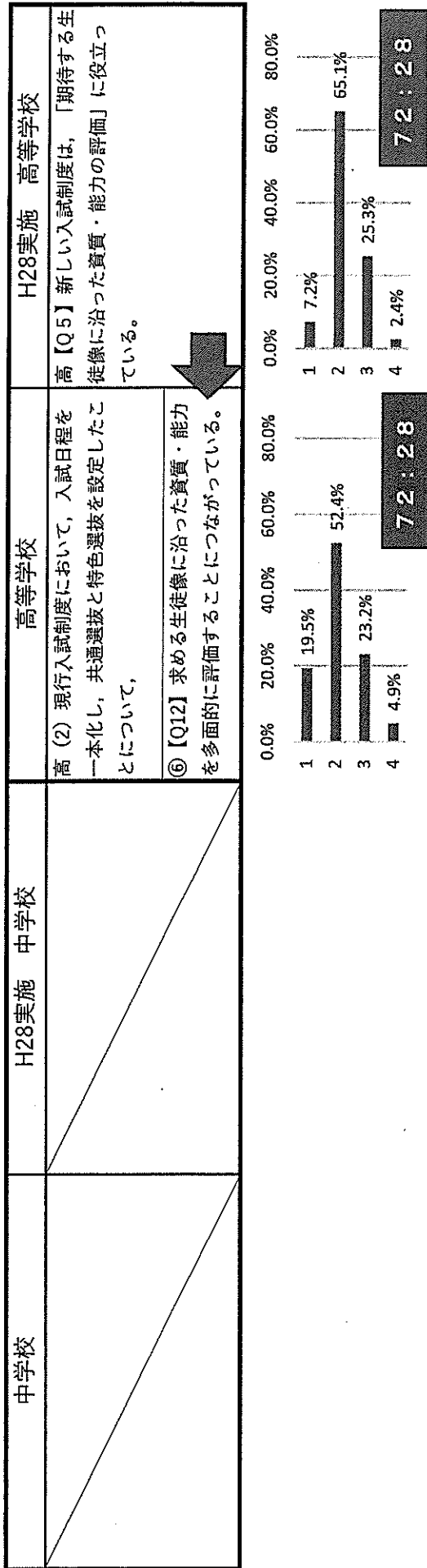


【比較6】入試期間と教育活動の充実との関係

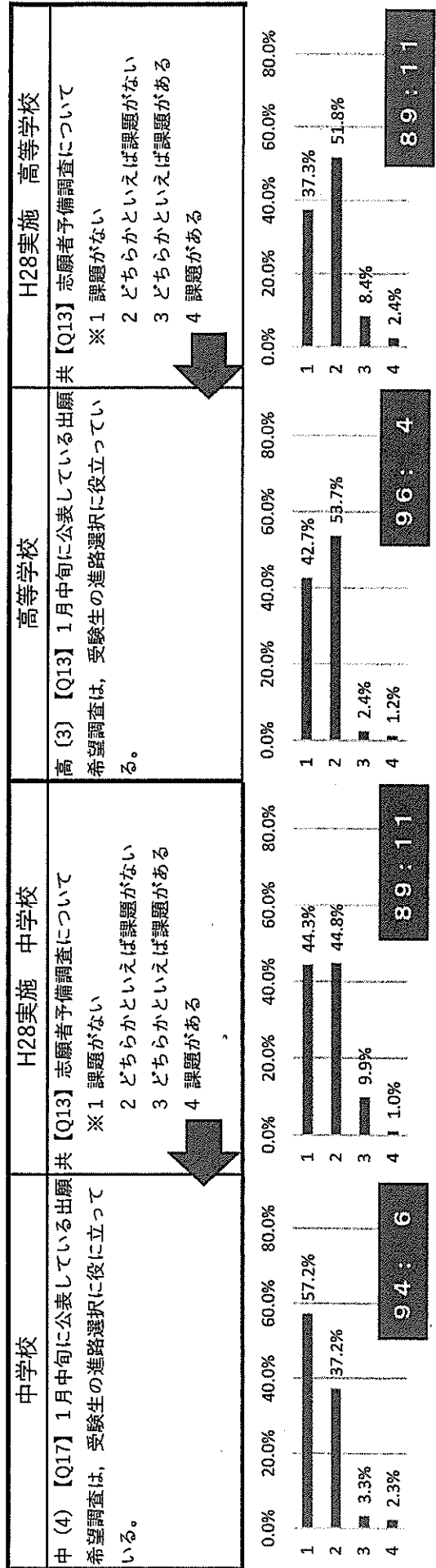
中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中(3) 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて、 ⑥【Q15】入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている。	共【Q8】新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている。	高(2) 現行入試制度において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定した点について、 ②【Q8】入試期間が短くなり、高校の教育活動を充実させることに役立っている。	共【Q8】新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている。



【比較7】入試制度における選抜方法への影響

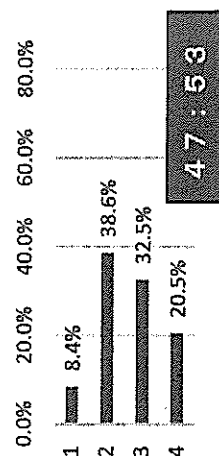
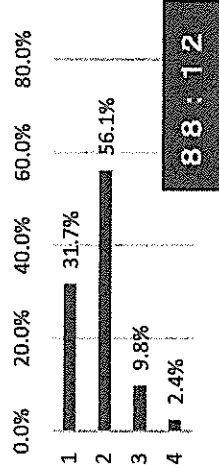
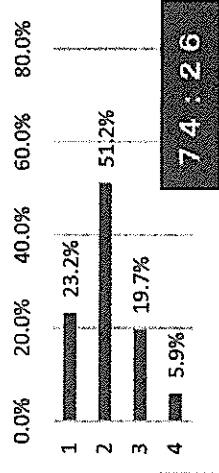
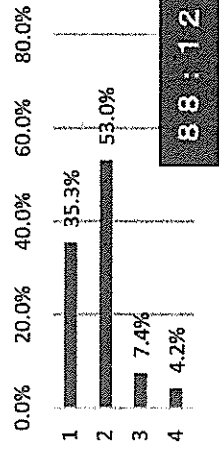


【比較8】受験生の進路選択に関する出願希望調査 (H28志願者予備調査) の影響



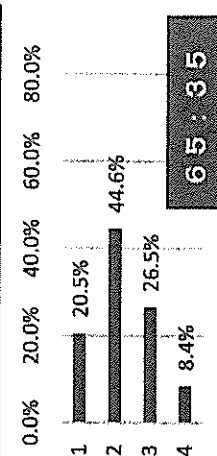
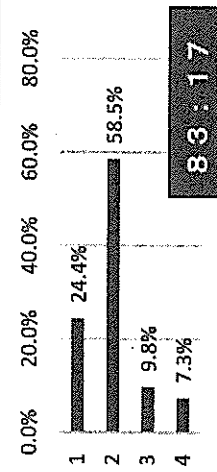
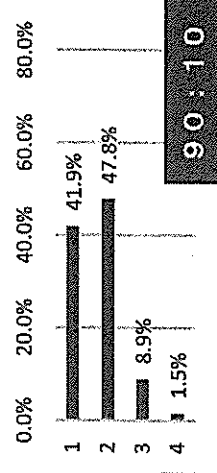
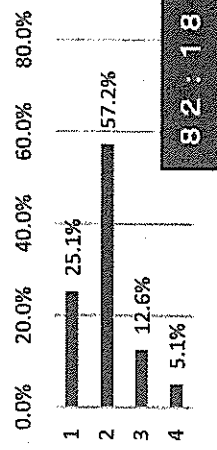
【比較9】入試全体の期間・時期に関する評価

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中 (5) 現行入試制度の日程について、	中 (5) 現行入試制度の日程について、	中 (5) 現行入試制度の日程について、	共【Q12】日程（入試全体の期間・時期）について
①【Q18】第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、中学校が受験生に対応する上で適切である。	①【Q14】第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、高校が入試を実施する上で適切である。	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある



【比較10】入試全体の期間・時期に関する評価

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中 (5) 現行入試制度の日程について、	中 (5) 現行入試制度の日程について、	中 (5) 現行入試制度の日程について、	共【Q11】日程（第二次募集）について
③【Q20】第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。	③【Q16】第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある



自由記述について

I 【中学校】 総回答数 215 校中，評価及び感想等を除く有効記述 32 校が記載あり

1 入試事務関係で対応可能な内容 9 件

	記載内容	説明会等での対応案
1	調査書の評定の記載で，不登校生徒の評定が空欄でも「可」ということについて，再度周知して欲しい。	再度説明を徹底
2	第二次募集実施校の情報をできるだけ早く欲しい。	すでに最短で公表
3	予備登校で，「入試結果の開示」を求めたところ，「今日は忙しいので応じられない」と断られた。	高校に説明し，協力を依頼
4	配慮申請の提出時期を2月上旬までにして欲しい。	柔軟に対応
5	公立入試説明会は今後も動画配信でお願いしたい。 【2件】	音声の録音で対応を
6	追試験の実際の実施した状況について，情報（受験者数，合格者数，試験問題等）は公開して欲しい。	前年度の情報を提供
7	出願時の生徒氏名は，パソコンで表示できる範囲の漢字にして欲しい。	指導要録どおりの記載で依頼
8	昨年度から保護者氏名にふりがなを書くようになったが，狭いので，スペースを広くして欲しい。	今年度対応済

2 今後検討すべき内容 9 件

	記載内容
1	日程の検討【3件】 ○私立一般の発表から公立出願までの期間が短い。 ○私立高校の合格発表から，第一次募集出願締切までの間隔に余裕がない。 ○土日をまたいだ入試日程は避けて欲しい。
2	「求める生徒像」の記載【3件】 ○もっと具体的で，受験生や保護者にも伝わるようにして欲しい。 ○中学生として意識すべき具体的な行動目標を示して欲しい。 ○定員を大幅に下回る高校も多い反面，受験生や保護者にとって違いがわかり，魅力づくりに様々努力している私立高校への入学が増加している。入試制度を含めた公立高校そのものの意義を見つめ直す必要がある。
3	本人の合格が，特色選抜か，共通選抜か開示して欲しい。
4	定員割れの高校でも不合格になる場合がある。できるだけ定員を満たすべき。
5	特色選抜の対象範囲が定員の2倍というのは多すぎる。

3 今後情報収集が必要な内容

○Web出願の検討について 12件

[背景] 私立高校の出願がWeb出願に移行しており，中学校としては，願書を集約する手間がなく，書き方の指導もする必要がなく受験生の責任において出願できる。

[課題] 財政面やセキュリティ面での対応が難しい。

受験料・・・公立：私立=2,200円：12,000円～14,000円

セキュリティ面・・・出願された情報の管理を誰が行うのか等も課題

4 要望として受け取るが，新しい入試制度実施の検証のため検討対象外の内容 5件

	記載内容
1	学校ごとの基準の中でなされた評定の数値は，全受験生に平等と言えるか。
2	高校からの合否等の返送用封筒の切手は結果によって重さが変わるので高校側に負担して欲しい。
3	生徒の受験のチャンスを増やすために，前期・後期入試を戻して欲しい。
4	公立高校の先生方が学校説明のために来校される機会が増え，対応する時間に苦慮している。
5	公立高校の定員割れの問題が学力向上に大きく影響している。高校の統廃合だけでなく、40人1クラスの定員の見直しも必要になってくると考える。

Ⅱ 【高等学校】 総回答数 82 校中、評価及び感想等を除く有効記述 21 校が記載あり

1 入試事務関係で対応可能な内容 3 件

	記載内容	対応案
1	会場設営と問題受領対応が重複し負担。	要望として検討
2	二次募集問題の受領が負担。地区処理校で受領を。	要望として検討
3	新型コロナウイルス感染症に関する報告様式の煩雑。	要望として精査

2 今後検討すべき内容 14 件

	記載内容
1	共通選抜と特色選抜の扱い【3件】 ○志願者が少ない場合は特色選抜のみでの選考。 ○共通選抜及び特色選抜の採用は各高校に委ねる。 ○出願者が募集定員に満たない場合には、募集割合を出願者数で変動。
2	日程の検討【6件】 ○私立高校も含めた適正な定員と公立試験の日程の前倒しを検討。 ○第一次選抜を2月に実施し、合格発表は3月（初中旬）に実施を検討。 ○問題受領から採点日の日程については曜日を考慮した日程の設定へ ○採点業務が年々緻密になっているので余裕を持たせる日程に。 ○他県のように入試時期そのものを半月ほど早めた日程の検討を。 ○中学校側の状況を見据えて入試日程は慎重にすべき。
3	追試験等の実施【2件】 ○追試験や海外からの受験などを一箇所に集めての実施 ○追試験を近隣の地区で当番校を決めて複数校合同での実施
4	第2志望の選抜方法【2件】 ○第2志望の扱いを、「定員を満たさない場合」の限定を再考。 ○学校ごとに選択できるようにするか、選抜順序の後半の方法で行えるようにしていただきたい。
5	進学先を安定的に確保しようとする中学生のみならず、部活動を頑張りたい中学生にとっても、私立高校への進学が魅力的になっている。

3 今後情報収集が必要な内容

○マークシート方式の導入について 3 件

[背景] 採点ミス事案が多発した平成 26 年度入試以降、一部記述式を含むマークシート方式を導入した都県あり。採点基準の統一には有効。

[課題] 財政面や問題作成等の対応が必要。

4 要望として受け取るが、新しい入試制度実施の検証のため検討対象外の内容 4件

	記載内容
1	実業・防災・芸術・体育科においては、旧推薦入試（1月実施）を導入。
2	第2次募集学力検査は、第1次募集学力検査結果を活用。
3	入試時期をもっと早い時期に、せめて特色入試は1月にすべき。
4	第一次募集のみの実施にするか、前期募集と後期募集（一次募集）の2回に分けて実施するかを各高校が選択できる制度へ。

自由記述（生徒）

総回答数3,011件のうち、自由記述103件（3.4%）

※共通選抜と特色選抜について	
1 特色選抜を廃止して欲しい	2
2 特色選抜をもう少しわかりやすくして欲しい	2
※入試日程の一本化	
1 前期選抜と後期選抜に戻して欲しい	8
※入試制度について	
1 推薦入試が無くなったのが残念	4
2 ・評定を入試に取り入れることに疑問を感じる ・評定の学校間の格差をなくして欲しい	4
3 合格発表をもう少し早くして欲しい	3
4 入試制度を廃止した法がよい	3
5 評定の割合をもっと小さくして欲しい	2
6 調査書の5教科以外の評定を2倍にするのをやめて欲しい	2
7 希望調査をもう少し早く発表して欲しい	2
8 学力以外に評価する指標を導入して欲しい	2
9 公立高校を2回受験できるようにして欲しい	2
※入試問題について	
1 問題が易しすぎる	9
2 差がつくようにもっと数学の問題を難しくすべき	3
3 難関校で自校作成問題の導入を望む	3
4 数学の最終問題は正答率が極端に低く無駄である	2

自由記述（保護者）

総回答数2,095件のうち、自由記述261件（12.5%）

※共通選抜と特色選抜について	
1 共通選抜か特色選抜のどちらで合格したか開示して欲しい	11
2 共通選抜と特色選抜の違いがわかりづらい	4
3 特色選抜について学校ごとに異なるのでわかりづらい	2
4 普通科での特色選抜にあまり必要がない	2
※入試日程の一本化	
1 受験日程を前倒しした方がよい、卒業式より前に合格発表をして欲しい	15
2 前期選抜と後期選抜に戻して欲しい	6
3 公立高校を2回受験できるようにして欲しい	4
4 入試制度を変更するなら中学入学前に確定したものをを行うべき	3
※入試制度について	
1 ・評定を入試に取り入れることに疑問を感じる ・評定の学校間の格差をなくして欲しい	17
2 試験から合格発表までの期間があまり長いのはどうかと感じる	11
3 調査書の5教科以外の評定を2倍にするのをやめて欲しい	9
4 ・評定の比率が高いために、3年生から成績が向上しても挽回できない ・3年生で頑張ったり転校した生徒を考慮して3年生の評定で評価して欲しい	8
5 公立高校に推薦枠がないことは厳しい	8
6 合格発表から入学式までの準備期間が短すぎる（準備が大変である）	5
7 入試制度をコロコロ変更することはやめて欲しい	4
8 子どもの数が減少しているので学区制に戻して各地域バランスよくして欲しい	4
9 中学校での受験に対する情報提供や学習指導が不足している	3
10 合格発表をWEBも同時刻にして欲しい	2
11 入試制度が複雑すぎて難しい	2
※入試問題について	
1 入試問題が易しすぎる	6
2 数学の最終問題を時間内に解けるレベルにすべき	2